



震災復興住宅の孤独死

阪神淡路大震災からの復興の一方で増える孤独死。それについてのテレビ番組を見て考えさせられた。

神戸市では

神戸市で、焼け出された若い人は仕事もあるので自分で見つけた仮住まいに入る例も多かったよう。その為、仮設住宅には年配者が多いという。

恒久的に住める復興住宅が出来た時、神戸市は仮設住宅からの入居は50%にしようと計画。仮設住宅からの入居者だけでは高齢者が多くなるから。しかし、国は仮設住宅の解消を優先せよと指示。「仮設がなくなり復興が進んだ」という形にしたかったのだろう。

その後、復興住宅で孤独死が相次いだとい

う。色々な地域から来た年配者は相互の繋がりが薄い。そこで、見守りの市職員を派遣し、ボランティアにも依頼。しかし、孤独死は減らない。

地域住民相互の繋がり

そこで分かったのは、地域住民相互のつながりの大切さだった。小さい子がいれば、その子を介して色々な繋がりも出来る。近隣の人がお互いに声を掛け合えば、異変にも気付く。様々な年齢層の人が入居することが大切なのだそう。

そこで問題なのは、連日の残業。毎日帰りが遅くては近隣と顔を合わせられない。残業が当たり前という社会の歪みを直さなくてはならないのでは？
みなさんはどう思われますか？

永田東の丘から

横浜市南区
二〇一五年一月



横浜市南区の南部は丘陵地帯。谷沿いは田畑であった。それが、早くから宅地化された。思い思いに建てられた家々の屋根が複雑な模様をなしている。丘も徐々に宅地化されて、斜面に雑木林が残っている。

崖上の、一角から、南の方角の眺望が開けていた。

目の前を、京浜急行の赤い電車がこちらに向かって走って来る。弘明寺駅を出て、しばらくの所にあるトンネルを出て来たばかりだ。ほんの十分の間に、上下各々三、四本の電車が走る。

遠くに高層ビルが見える。上大岡の商業施設だ。

その手前は弘明寺界限の五、六階建て。マンション、学校、特養ホームなど様々だ。

先週はお休みしました